



「線維筋痛症に伴う疼痛」
「慢性腰痛症に伴う疼痛」
「変形性関節症に伴う疼痛」で
デュロキセチン「ニプロ」^{*}を服用される

患者さんご家族の方へ



*デュロキセチンカプセル20mg「ニプロ」、デュロキセチンカプセル30mg「ニプロ」、デュロキセチンOD錠20mg「ニプロ」、デュロキセチンOD錠30mg「ニプロ」の4剤形を指します



「痛み」には様々な種類があります

痛みはケガや熱による刺激で起こる痛みや、神経が傷つくことによる痛みなど様々な原因で発生することがわかっています。原因がなくなることによって痛みが引くこともありますが、もともとの原因がなくなっても痛みだけが長い間続くことがあります。



痛みの感覚はなぜ伝わるの？

痛みは、脳の神経細胞が「痛い」という信号をキャッチして生まれる感覚です。痛みに関連する神経の経路には、「痛い」という信号を脳に伝える経路と、「痛い」という信号を抑える経路の二つがあります。

痛みが長く続いている患者さんでは、痛みを感じる原因の一つとして、この信号を抑える経路に異常が生じていることが考えられています。



デュロキセチン「ニプロ」ってどんなお薬？

デュロキセチン「ニプロ」は長く続く痛み（線維筋痛症に伴う疼痛、慢性腰痛症に伴う疼痛、変形性関節症に伴う疼痛）を和らげるお薬です。デュロキセチン「ニプロ」には、痛みの抑制に関係する神経伝達物質であるセロトニン、ノルアドレナリン¹⁾の量を調整する作用があります。これによって痛みを抑える働きが強められると考えられています²⁾。

1) Stahl, S. M.: J. Clin. Psychiatry, 2002, **63**(5), 382

2) Iyengar, S. et al.: J. Pharmacol. Exp. Ther., 2004, **311**(2), 576

? デュロキセチン「ニプロ」の飲み方は？

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、主治医が決めます。コップ一杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

OD錠は口に入れると溶けますが、その後は唾液またはコップ一杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。ただし、寝たままの状態では水またはぬるま湯なしで飲まないでください。また、OD錠を砕いたり、カプセルをあけたりせず、そのまま飲んでください。

? うつ病にも使われるお薬と聞きましたが、うつ病ではない私が飲んでも大丈夫？

デュロキセチン「ニプロ」は「うつ病・うつ状態」の治療にも使われるお薬ですが、鎮痛効果は、うつに対する作用とは独立した作用が主となって発揮されるといわれています。

うつ病ではない、慢性腰痛症・変形性関節症の痛みを持つ患者さんを対象に行われた試験で、痛みを軽減する効果と安全性が評価されています。

? デュロキセチン「ニプロ」にはどんな副作用があるの？

飲み始めに眠くなったり、ムカムカしたりする場合があります。

これらの副作用は飲み始めてから1～2週間の服用初期にあらわれることが多く、副作用の種類によっては、その後治まってくる傾向があります。

気になる症状がある場合は、ご自身の判断で薬の服用を中止せずに、まず主治医にご相談ください。



服用中は下記のような点にも ご注意ください

- 肝機能、心拍数、血圧に影響を与えることがあります。
そのため、血液検査、脈拍数や血圧測定を行い、異常がないか確認することがあります。

- めまいやふらつきにより転倒することがありますので、これらの症状を感じたら早めに主治医や薬剤師にお伝えください。

- 自動車の運転などが必要な場合は、主治医に相談しましょう。
眠気、めまいなど、自動車の運転に影響を与える症状があらわれることがあるので、注意してください。また、これらの体調不良を自覚した場合は、絶対に運転しないでください。特に薬の飲み始め、飲む量を変えたとき、他の薬から変えた際にこれらの症状があらわれやすいため、主治医より運転などをしないように指示があった場合は指示を守りましょう。

- 痛み止めとして用いられている非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)には、消化管出血の副作用が知られており、デュロキセチン「ニプロ」と一緒に使用される場合はリスクが高まる可能性があります。気になる症状があれば、早めに主治医や薬剤師にご相談ください。

患者さんにご家族の方へ

うつ病など、精神科の病気で治療されている場合は、精神科の病気の症状に影響を与える可能性がありますので、服用前に主治医にお伝えください。

患者さんへ

- 飲み始めや飲む量が変わったときに、イライラして落ち着かなくなったり、生きるのがつらいと感じたり、消えてしまいたいという気持ちになったり、場合によっては死にたいという気持ちになったりすることが、患者さんによってまれにあらわれることがあります。
- 不安になる、あせる、興奮しやすい、攻撃的になるなどの症状があらわれることがあります。
- このような症状がある場合、主治医と相談の上、必要に応じて精神科／心療内科の受診をご検討ください。

ご家族の方へ

患者さんのこれらの症状に気づかれた場合、患者さんご本人かご家族の方から早めに主治医にご連絡ください。

用法・用量について

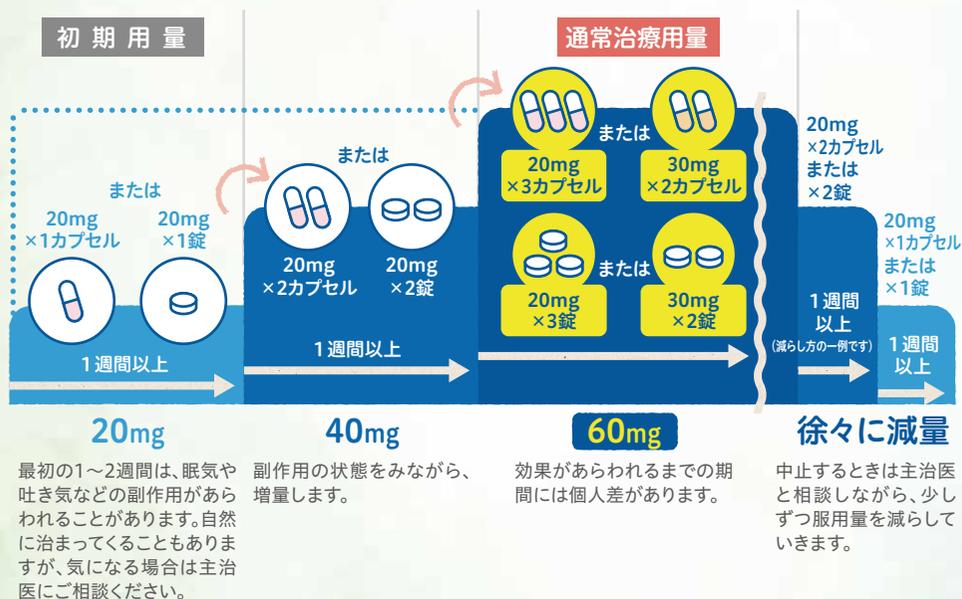


通常治療用量
60mg

線維筋痛症・慢性腰痛症・変形性関節症に伴う痛みがある患者さんの場合

- ・デュロキセチン「ニプロ」は、1日1回朝食後に服用します。服用量は20mgから始め、1週間以上の間隔を空けて20mgずつ増量し、最終的に60mgまで増量します。
- ・通常治療用量は、1日1回60mgです。
- ・痛みがあるときだけではなく、毎日服用することで効果を発揮します。
- ・効果があらわれるまでには、時間がかかる場合があります。

1週間以上服用した後、効果や副作用の状態をみながら、20mgずつ量を増やし、通常治療用量の60mgにします。



中止するときは、飲み始めのときとは逆に、少しずつ服用量を減らしていきます。体調が良くなったと自己判断して使用を中止したり、量を減らしたりすると、気分の変調があらわれたり、頭痛、悪心などの症状があらわれることがあります。主治医の指示どおりに服用することが大切です。

RMP

ニプロ株式会社

2021年6月改訂